第３９回教育研究全国大会（栃木大会）

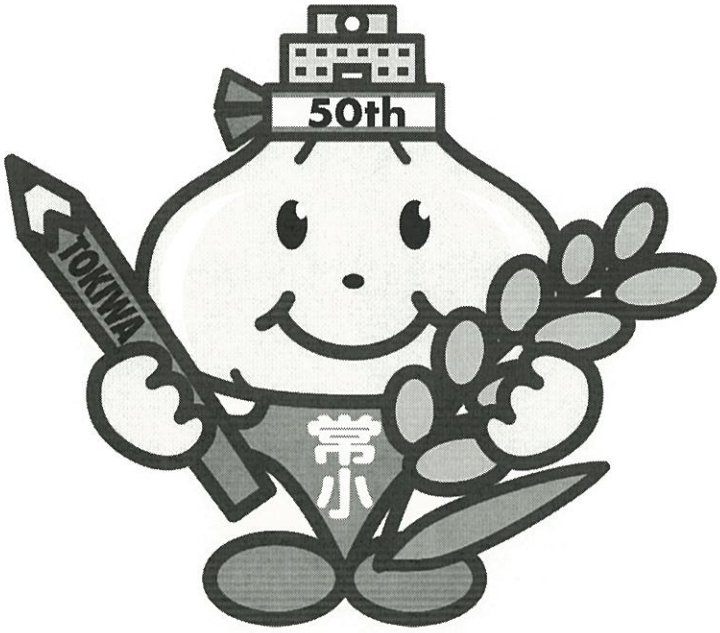
第３分科会（道徳教育）

テーマ「特別の教科　道徳」を要とする豊かな道徳性を育む心の教育

１　提案テーマ　　学校課題を見据えた道徳教育の在り方
～学びの質的転換とカリキュラム・マネジメント～

２　提案趣旨　　教科・横断的な見方・考え方と道徳科での多面的・多角的な考え方をスパイラル的に身に付け、豊かで、深い学びに結びつけていく授業改善、カリキュラム・マネジメントの在り方について報告します。

３　提案内容　　（１）ねらいの明確化と指導方法の選択
（２）活動内容の絞り込みと学び方を意識した授業デザイン
（３）他教科・領域等の関連と地域社会との協働を意識したカリキュラム・マネジメント
（４）道徳科の指導と評価の一体化



藤崎町立常盤小学校　創立５０周年イメージキャラクター「ときニン」

青森県教育協議会
藤崎町立常盤小学校　大　川　　浩

第３９回教育研究全国大会（栃木大会）　第３分科会　道徳教育

学校課題を見据えた道徳教育の在り方
～学びの質的転換とカリキュラム・マネジメント～

青森県教育協議会　藤崎町立常盤小学校　大　川　　浩

１　道徳教育に関する実施状況の概要

本校では、道徳教育の抜本的改善・充実を図るために、児童の実態や教師や保護者の願いを踏まえ、校長の方針の下、教科化された「特別の教科　道徳」（以下道徳科）を、校内研修の研究の中心に据え、各教科・領域等との関連を図りながら研究に取り組んできた。

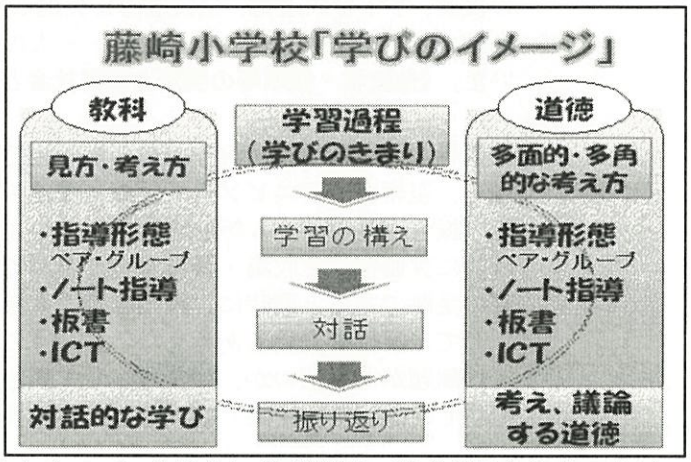
今年度は、道徳科における授業改善とともに道徳性の育成を目指したカリキュラム・マネジメントも視野に入れながら、以下の３点を柱に道徳教育の充実に努めてきた。

（１）よりよく生きるための基礎となる道徳性を養うため、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に生きる資質・能力の育成を図る。

（２）物事を多面的・多角的にとらえる力を育成するため、対話的な学びのある授業の創造を目指し、指導過程や多様な指導方法の改善を図り、考え・議論する道徳への質的転換を図る。

（３）体験的な活動や地域の人とのかかわりに道徳的価値を取り入れるため、各教科・各領域等と道徳的価値との関連を図った道徳教育全体計画（別葉）を見直し、道徳教育の充実につなげる。

また、本校の校内研修は、学習指導要領が提唱する「主体的・対話的で深い学び」での授業改善とともに教科化された道徳科の授業の質的転換を目指し研究主題を「対話的な学びを充実させるための授業展開の工夫～各教科と道徳科の授業を通して～」と設定した。対話的な学びのある授業を創造することで、児童が他者との学び合いを重ね、自分一人では気付かなかったことに気付いたり、相手に伝わるような手段を考えたりするようになり、思考力、判断力、表現力等が育成されるものと考えた。



このように、対話的な学びの充実を図ることによって、主体的に学ぶ態度の育成が図られることはもちろん、各教科で学んだ見方・考え方が道徳科にもつながり、道徳科で学んだ多面的・多角的な考え方が各教科等にもつながる等の相乗効果も期待できる。この教科横断的な見方・考え方と道徳科での多面的・多角的な考え方をスパイラル的に身に付けていくことが深い学びの実現にもつながり、道徳科の授業改善の推進力になると考え、研究内容を以下のように設定した。

（１）　教材文を分析し、教材のもつ価値を深く考えさせる発問として設定することにより、ねらいを明確にした授業の創造を図る。

（２）　指導過程の中に「対話する時間」「まとめと振り返りの時間（１０分）」を位置付けることにより、自他の考えを交流させ、考え・議論する道徳の実現を図る。

（３）　道徳的価値と各教科・各領域等の関連する項目を精査し、社会との連携・協働を意識した教育実践を行うことにより、社会に開かれた教育課程の実現を図る。

（４）　道徳ノートや自己評価等、多様な評価方法を取り入れることにより、道徳科における学習状況や成長の様子を把握し、授業改善につなげる。

その結果、次のような改善が見られた。

（1） 指導案を作成する前に、教材のもつ価値と有効な発問・指導方法・指導形態について協議するため、教材分析チームを編成し、授業者がその分析内容を基に授業をデザインする体制をとった。その結果、児童にいったい何を一番考えさせ、何を学ばせたいのか、その場面はどこなのか等、授業者にとって授業のねらいを明確化できると同時に、多様な指導方法を選択できる場になっていた。**《ねらいの明確化と指導方法の選択》**

（2） 「まとめと振り返りの時間（１０分）」を確保するため、教材提示の工夫、発問の吟味・精選、書く活動と対話する活動の絞り込み等、授業のスリム化という課題に向け、タイムマネジメントというキーワードで、授業改善を行うことができた。その結果、児童の思考に寄り添った課題設定と対話する内容（児童の思考を深める発問の位置付け）をつなげた授業を創造することができ、また実生活に置き換えて考える時間も確保され、考え・議論する道徳の実現に近づくことができた。

《活動内容の絞り込みと学び方を意識した授業デザイン》

（3） 道徳科と他教科・領域、学校行事等をつなげた指導を効果的に実践するため、事前に関連する項目を全体計画や時間軸で把握できる別葉で確認し、教科横断的そして体験的に学ぶことができるようカリキュラムマネジメントを機能させることができた。また、社会に開かれた教育課程の実現のため、地域の皆様と一緒に行う対話集会、保護者参加型の道徳科の授業、学年合同道徳、全校道徳を実施したことが、世代を超えた多様な価値観と出会い、自己の生き方を見つめ、振り返り、一人の人間としての生き方を考えるよい機会となっていた。**《他教科・領域等の関連と地域社会との協働を意識したカリキュラム・マネジメント》**

（4） 道徳科における学習状況や成長の様子を把握するために、道徳ノート・ワークシート（記述）、座席表へのエピソード記録（発言・発話）、パフォーマンス（役割演技）、自己評価（振り返りシート）等を実施し、ファイリング・ポートフォリオ形式で、偏りなく、継続的に評価情報を収集・蓄積することができた。この評価情報は、児童一人一人の心の成長の足跡であると同時に、授業改善の大きな材料にもなっていた。やはり、授業の充実なくして、評価の充実もありえないということを改めて認識することができた。いったいどこに課題があったのか、授業者として課題に対して真正面に向き合い、多面的・多角的に分析し、改善策を模索し続けることが、授業改善につながっていた。

《道徳科の指導と評価の一体化》

2　実施した研究内容

（1）道徳教育で目指す子ども像の設定と共有化

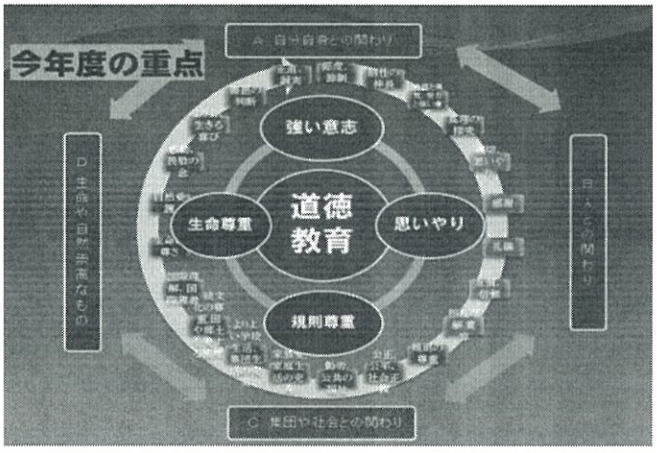
地域や保護者の願い、そして児童の実態と教育目標との関連を踏まえ、道徳教育で目指す子ども像と今年度の重点項目を設定した。

①目指す子ども像（教育目標：徳育分野）

ア　善悪を考えて行動する子
イ　おもいやりのある子
ウ　きまりを守る子
エ　進んであいさつする子
オ　粘り強く努力する子

②重点項目

・A　強い意志
・B　思いやり
・C　規則の尊重
・D　生命の尊重



（２）道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉の見直し

道徳科の授業を実践するにあたり、道徳科を要とした道徳教育の充実を図るため、各種計画の見直しを実施した。特に、児童の発達の段階や特性、地域の実情を考慮し、また各教科・領域等、学校行事との関連を意識し、道徳科の授業で得た学びが、その後に生きて働くように教材を配列（実施時期、配当時間数）した。また、職員室には、各学級の年間指導計画表が掲示され、実施状況を確認し合うとともに、実情に応じて計画を見直し・修正できるようにした。

（３）授業づくりの工夫・改善

①チームでの教材分析

事前に配付された教材文をチームのそれぞれが分析し、その後教材のもつ価値と有効な指導方法等について話し合った。話し合いの結果を授業構想図としてまとめ、授業者が授業デザインする際の参考資料として役立てることができた。その結果、授業者は、内容項目に対する指導者としての明確な考え（価値観）、内容項目に対する児童把握の必要性（児童観）、教材のもつ価値と有効な活用方法（教材観）について認識を深めることができた。

ア　教材分析の主な視点

A　教材文の選択（より価値にせまる教材）　B　教材文に内在する道徳的価値の把握
C　ねらいの明確化（育てたい道徳性）　D　考えさせたい場面
E　道徳的価値に近づく発問の整理、類型化　F　有効な指導方法、指導形態の吟味
G　評価方法、重点的に見取る視点

②事前アンケートの活用

内容項目に関する事前アンケートを実施したことにより、児童の実態把握、また授業での課題設定、発問、意図的指名に役立てることができた。

③発問の工夫

発問を考える前に、児童に何を考えさせ、何を学ばせたいのか授業のコンセプトを明確してから発問の構成を考えるようにした。その際に、人の気持ちや立場がどの程度わかるのか、そのような経験をしてきているのかなど、児童の発達の段階、生活経験を考慮する必要もあった。さらに、多様な考えがでるような発問と授業の本質に向かう発問を明確に使い分けることができるようになれば、授業の質を高める有効な手立ての一つとして機能していくことが明らかになった。そのためにも、教師は、児童の実態を捉えて予想される発言を念頭に入れ、多種多様な発問の引き出しをたくさん用意しておく必要があった。ただ、授業のねらいに直結する質の高い発問を見いだすことは、とても困難であることが多かった。

ア　発問の基本的な考え

A　心情を問う　この場面で、○○さんはどんなことを考えたのでしょうか？
B　行為を問う　○○さんがしたことを、どう思いますか。
C　自分を問う　これから友だちとどのように接していけばいいでしょうか。
D　道徳的価値を問う　どうすれば、思いやりの心がもてるのでしょうか。
E　教材を問う　この話から、どんなことが大切だと感じましたか。

イ　思考を深めるための発問

A　共感的な発問　○○さんは、どんなことを考えていたのでしょうか。
B　分析的な発問　どうして、大事だと思うのですか？　なぜそう考えたのですか？
C　投影的な発問　あなただったら、どうしますか？

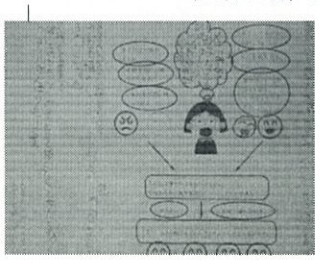
D　批判的な発問　　本当に、そんなことをしてよかったのですか？
E　問い返しや追求発問　なぜ、そう思うのですか？　思いやりとは何ですか？
F　詳述させる発問　　もっとくわしく教えて。なぜ思いやる心が大切なのですか？
G　切り返す発問　　みんなもそう思うのですか？
H　ゆさぶり発問　　本当にそうなの？　わかっているのに、なぜできないのですか？
I　相違点を生かす発問　よりよいのは、どちらですか。あなたは、どちらを選びますか？
J　共通点を生かす発問　どの考えにも共通することは何ですか？
K　視点を変える発問　　○○さんの立場で考えてみると･･･どうなりますか？

④書く活動と対話する活動の厳選

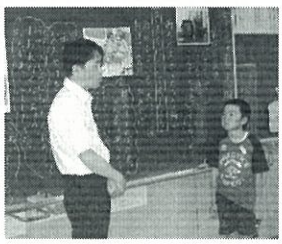
１単位時間（４５分）の中で、授業を完結させるためには、書く活動と対話する活動を厳選し、学習過程の中に位置付ける必要があった。そのため、書く活動は主発問に対する自分の考えと振り返りの場面の概ね２回とした。また、対話する活動は、その目的や内容を明確にすることで、授業のねらいにせまることができた。ただ、グループやペアでの対話は主体的な学びとして機能していたが、全体での交流場面でも、もっと主体的な学びへと転換する必要性を感じた。今後は、児童同士で意見交流できるよう、児童が児童に問いを投げかけたり、感想を求めたり、また教師はファシリテーターとして授業をコーディネートする役に徹したりする等の授業改善が求められる。

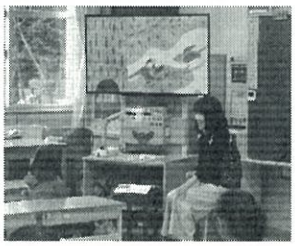
ア　道徳科における対話の分類
A　教材との対話（教材にある道徳的価値について自分なりの考えをもつ）
B　他者との対話（自分とは違った多面的・多角的な考えとの出会い）
C　自己内対話（自他の考えの比較検討、新たなものの見方、考え方の教授）

イ　対話を活性化させる手立て
A　対話する内容の焦点化、精選化　　B　書く活動との連動（自分の考えをもつ）
C　立場・根拠の明確化（ネームプレート、色で気持ちを表す心メーター）
D　ワークシートの工夫（吹き出し型）　E　グルーピングの工夫
F　自分との共通性、相違性の認識（色分けサイドライン、書き込み）
G　他者理解を深めるための役割演技　　H　学び方（他者への言葉がけ）


ワークシート

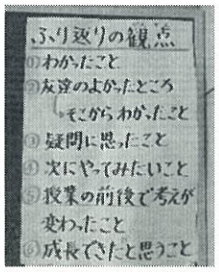
ペア対話


役割演技


対話の焦点化

⑤まとめと振り返り（終末）の充実

道徳科において書く活動は、児童が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要視してきた。特に終末場面では、道徳ノートやワークシートに、今日の授業で学んだことや、これからのよりよい生き方に対する思いや願いを書くよう、振り返りの観点を示しながら実践してきた。また、評価を見据えた終末場面の充実に向けた手立ても数多く提案され、授業改善につながっていた。さらに、道徳ノートは家庭との連携を図ることもでき、児童の成長の様子を伝えるツールとしても活用することができた。



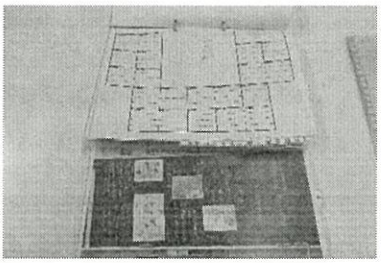
振り返り表

ア　終末場面の工夫

A　教師の体験談　　B　感動的な人物の逸話
C　児童の書いた作文の紹介　　D　保護者からの手紙（応援メッセージ）
E　ねらいにせまる歌の紹介、実演　　F　登場人物への手紙
G　授業を終えての新たな気付き　　H　自己の振り返り（観点の明確化）

⑥板書の工夫とファイリング

これまでも、道徳科での授業改善の一つとして、板書を写真で撮影し、学年ファイルに保存してきた。この学年ファイルにファイリングされた板書の写真が、次の学年の先生が授業を行う際の参考資料にもなっていた。板書は、授業を深める大事な手立てとなるものである。今年度は、教材に応じた柔軟な板書スタイル（縦書き型、横書き型、混合型）、登場人物の図式化、色分けの工夫、児童参加型の板書等での構造的な板書が、児童の思考を深める大きな要因の一つになっていた。


板書やワークシートの記録簿

⑦評価の工夫

道徳科の目標は、「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、ア道徳的諸価値についての理解を基に、イ自己を見つめ、ウ物事を多面的・多角的に考え、エ自己の生き方についての考えを深める学習を通して、オ道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と示されている。そこで、評価の観点を明確にしながら、道徳ノートやワークシートを使い継続的に評価情報を収集・蓄積することができ、通知票や指導要録の記述に大いに役立たせることができた。

ア　道徳的諸価値の理解
A　価値理解（道徳的価値を人間としてよりよく生きる上で大切であると理解すること）
B　人間理解（道徳的価値は大切でもなかなか実現できない人間の弱さ等を理解すること）
C　他者理解（道徳的価値について考え方や感じ方は一つではなく、多様であること）

イ　自己を見つめる（自分自身の問題として受け止める）
ウ　物事を多面的・多角的に考える（多様な考え方や感じ方にふれる）
エ　自己の生き方について考えを深める
（生き方の課題を考えそれを自己の生き方として実現しようとする思いや願いを深めること）

振り返り場面での共通項目として活用した。

オ　道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
（意欲的に学習に取り組むことで道徳性は育つ）

（４）地域社会や家庭との連携・協働を意識した教育活動の実践

地域の各種団体（人権擁護団体、婦人会、ふるさと応援隊、大学生等）の皆様とともに、思いやりの心を育む対話集会を実施した。この中では、NHK for School の教材をもとに、人を思いやる心について世代を超えて意見交流することができた。特に、それぞれの立場が違う視点で物事を考え話し合うことで、新たな気付きが生まれる等、実り多い集会となった。この他にも、多様な指導形態での授業実践に挑戦した。

対話集会

①学年合同道徳（学級の枠を超え、同世代での授業実践　ＴＴでの授業）
②全校道徳（学年の枠を超え、二項対立型による異年齢集団での対話）
③保護者参加型道徳（保護者と子どもの対話活動を取り入れた授業実践）
④地域への道徳通信の発行（地域への情報発信、取組状況の説明）
⑤全学級での人権教室の開催（いじめ防止プログラム）
⑥なべワングランプリへの参加（地域町おこし隊とのコラボ事業）
⑦老人ホームの訪問、保育園児・老人クラブとの交流会

※　なべワングランプリへの参加の様子（地域町おこし隊とのコラボ事業）

５年生が地域町おこし隊「けやぐ組」とコラボし，新メニュー「ふじっこなべ」を創作し参加した。そして，見事グランプリを獲得した。

（５）理論研究

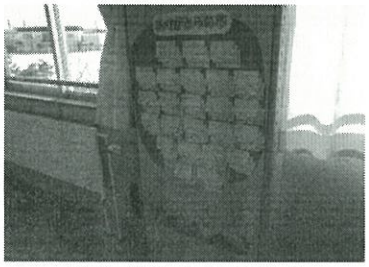
筑波大学附属小学校、加藤宣行先生を講師として招聘し、「道徳科における授業改善のポイント＆評価」というテーマで、師範授業と講演をしていただいた。授業の中では、登場人物の行為の裏にある、文章として書かれていない心の本質をいかに見える化するかが授業改善の大事なポイントの一つになっていくということを学ぶことができた。そのためにも、発問（問い）の類型を意識した授業、そして子どもの心を動かす１０のポイントのある授業を目指すことが、これからの道徳科の目指す方向性につながり、授業改善していくポイントになっていくということを確認することができた。

加藤先生による師範授業

（６）学校行事、児童会との関連

本校の重点項目と関連した活動内容を、校内組織（教師側）と児童会（児童側）で考え、より主体的に実践できるようにした。

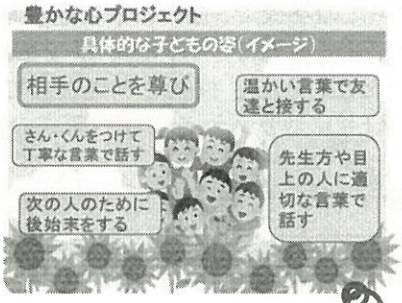
①ありがとうの木運動（思いやり：児童会）
②あいさつの木運動（礼儀：児童会）
③あたたかい言葉デー（思いやり：豊かな心プロジェクト）
④廊下歩行デー（規則の尊重：豊かな心プロジェクト）
⑤マラソン縄跳びチャレンジ（強い意志：健やかプロジェクト）

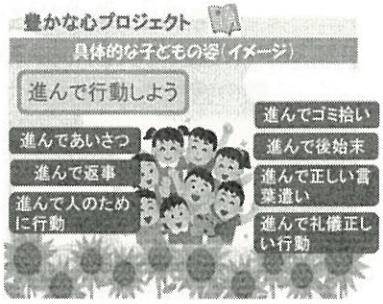


ありがとうの木運動

※ 豊かな心プロジェクトチームのプレゼン内容の紹介（抜粋）

豊かな心プロジェクト





道徳教育の重点目標である「思いやる心」についても取り上げる。

教育目標を，より具現化した子どもの姿をイメージする。

今年度の重点

3つの「あ」

- あんぜん　温かい言葉遣い　さん・くんづけ
- あいさつ　進んであいさつ
- あとしまつ　きまりを守る

年度当初，３つの「あ」の観点を確認する。

あんぜん　温かい言葉遣い　さん・くんづけ

▲ステージにあがる子が･･･
▲廊下やアスファルト部分を走る子が･･･
○「なぜ」いけないのか、子どもたちに教える。（雨の日はとくにぶつかってのけがが多い）
○模範者を紹介する。

あいさつ　進んであいさつ

▲言われてあいさつ、返事が多い
▲「進んで」という部分が課題
▲地域やお客様にはよいが、児童同士では･･･。
○朝、帰りの会で児童同士（学級、学年）のあいさつは必ずする。
○顔見知りにもあいさつする。
○昼は、「こんにちは」

それぞれの項目，観点で実践を振り返り，今後の指導の方向性，取組事項を確認する。

あとしまつ　きまりを守る

▲特定の子が、後始末が悪い。
▲立つ時に、椅子をいれない子が･･･
▲自分のゴミでないと拾わない。
▲床にゴミが落ちている時が多い。
○机の中の整理
○椅子をしっかりいれて･･･
○ゴミゼロ運動
○学級のゴミは学級できちんと指導

言葉遣い

▲「さん・くん」は、学校内ではできるが、地域や家庭ではできていない
▲友達同士の会話で、乱暴な言葉を耳にする
▲相手を傷つける言葉を･･･
▲口調がきつい子が･･･
○「さん・くん運動」の継続

2学期プロジェクト 改善＆行動プラン

9月　廊下歩行デー
《学級での話合い→代表委員会》
11月　ありがとうの木運動
《どちらもアンケートで意識調査を行う》

自分の席の近くにゴミが落ちていても･･･。
学級，学校の一員としての自覚がほしい。

思いやりの心を育むため，言葉遣いに関する指導も，重点化して取り組む。

（７）小中連携

①公開授業や講演会の相互参観

今年度は、中学校区すべての学校で、校内研修で道徳科を研究の柱として取り組むことになり、他校の実践の様子を相互に参観できる体制が整備された。また各校で招聘された講師の皆様の講話を拝聴させていただいたり、授業を参観させていただいたりすることで他校での実践の成果をすぐに本校の研究に取り入れる等校内研究の質を高める原動力にもなっていた。

②藤崎町小中学校連携協議会「秋季全体研修会」での意見交換

③一礼の日（あいさつ運動：町ぐるみの取組）

④黙働による清掃活動

中学校区すべての学校で、共通認識をもって取り組めた。

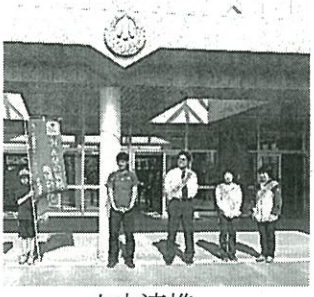
藤中吹奏楽部による演奏

⑤ようこそ先輩「藤崎中学校吹奏楽部による演奏会」

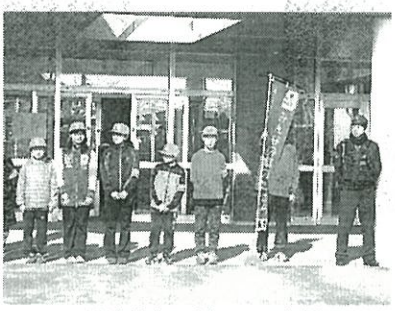
学校とＰＴＡとの共催で、藤崎中学校吹奏学部による演奏会を本校で開催することができた。自分たちの先輩の凜々しい姿を目の当たりにし、演奏での感動体験はもちろんのこと、特に６年生の児童は、自分たちの目指すべき姿がそこにあるという認識を深めることができた。

⑥道徳ノート展の開催

※　「一礼の日」の取組の様子



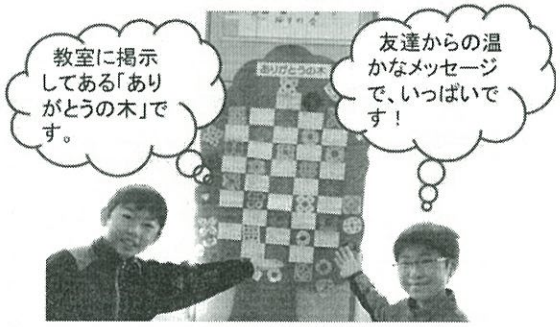
小中連携
《他校の先生の訪問》



関係機関等との連携Ⅰ
《警察官による訪問》

関係機関等との連携Ⅱ
《ＰＴＡ，町内会，老人クラブ》

あいさつ強化週間（あいさつシール）



「ありがとうの木」運動

3　実施経過

月	取　組　の　内　容	備　　考
4	・全体計画、年間指導計画、別葉の見直し ・校内研修計画の共通理解	
5	・研究の概要説明 ・児童、保護者アンケートの実施 ・研究授業①（４年２組）	
6	・研究授業②（３年１組） ・師範授業と講演会 「道徳科における授業改善のポイント＆評価」 講師　筑波大学附属小学校　加藤　宣行　先生 ・研究授業③（３年２組）	
7	・研究授業④（２年１組） ・南地方小教研Ｂ群半日研道徳部会に全員参加 「道徳科の指導と評価の一体化」 講師　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　氏	
8	・北海道・東北ブロック道徳教育指導者養成研修（２名参加） ・藤崎中央小学校校内研修に参加（２名） 模擬授業：野村　宏行　先生（東京都東大和市立第八小学校主任教諭） 講　　演：佐々木篤史　先生（弘前大学附属中学校教諭）	
9	・研究授業⑤（６年１組） ・研究授業⑥（５年１組） ・藤崎中学校校内研修に参加（１名） 講演・模擬授業「資料の効果的な活用と発問構成の工夫」 講師　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　氏	・要請訪問
10	・藤崎町小中学校連携協議会「秋季全体研修会」（本校会場） ・中南管内道徳教育研究協議会（２年２組、６年２組） ・研究授業⑦（１年２組）	
11	・研究授業⑧（４年１組） ・研究授業⑨（１年１組）	
12	・児童、保護者アンケートの実施 ・学校評価、授業アンケートの実施	
1	・研究のまとめ（今年度のまとめ）	・研究の評価
2	・研究結果報告 ・研究紀要の作成	
3	・次年度の研究の方向性の確認	

4　取組の成果と課題

（１）授業実践からの成果と課題

①中南管内道徳教育研究協議会

２年２組と６年２組の学級で授業公開と研究協議会が行われた。２つの授業は、内容項目は違っていても、本校でこれまで研究してきた学習過程（学び方）に、精選された発問を取り入れた授業構成として提案することにした。

②授業デザイン

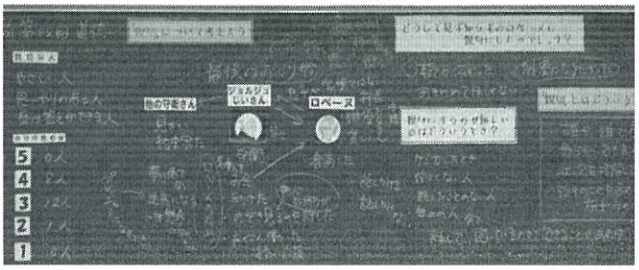
授業のコンセプト

６年「最後のおくり物」 Ｂ－７　親切、思いやり		２年「おじさんからの手紙」 Ｃ－１０　規則の尊重
事前に教材文を読ませておく	事前アンケートの活用	教材文を分けず、まとめて読む
	導入部分のスリム化	
深く考えさせるための問い返し	**発問の工夫**	ゆさぶり発問から、中心発問へ
	書く活動の厳選	
誰に対しても親切にすることは大切ですが、なぜできないの？	**対話の質**の充実	もしも、だれも電車に乗っていなかったら、どうする？
もしも、教室で～ あなたなら、どうする？	**教材から離れ、実生活へ**	大切だとわかっているのに、なぜできないの？
	本音で語り合える場	
導入時と同じ問いで変容見取る	振り返り・まとめ	導入時と同じ問いで変容見取る
親切とは、何ですか？		約束やきまりは、大切だと思いますか？
関連：老人ホーム訪問		関連：弘前駅探検

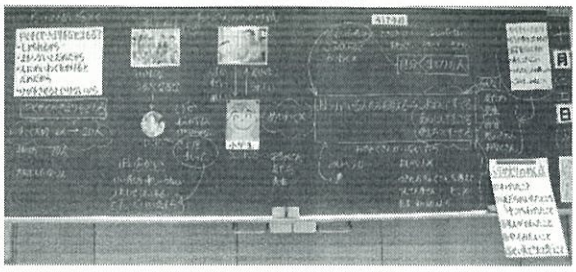
授業を構成する視点（授業評価の観点となる）

○発問は、授業のねらいにせまるために有効なものになっているか。
○対話的な学びを、考え、議論する道徳の授業に有効に機能させているか。
○工夫・改善が必要な部分が、他にないか。（教材提示、時間管理、評価等）

６年２組　板書



２年２組　板書



③研究協議会から（○成果、●課題）

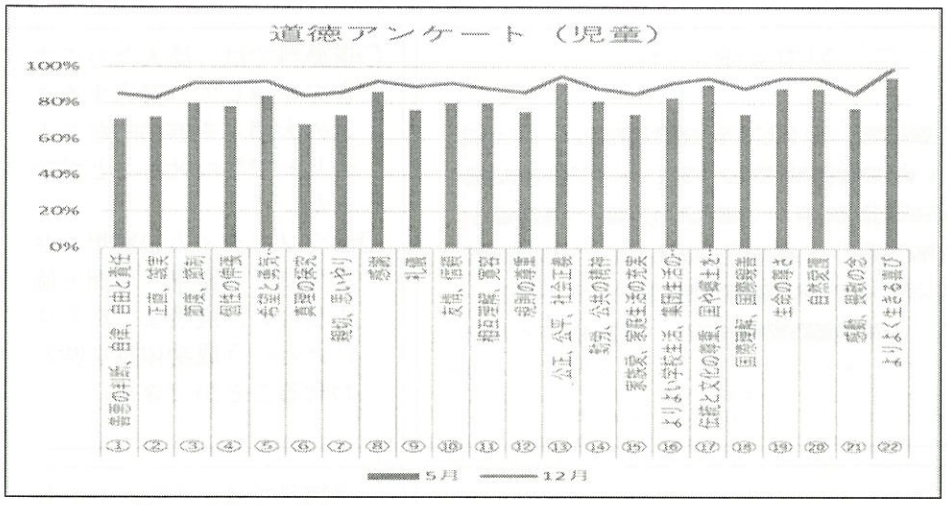
６年２組　「最後のおくり物」	２年２組　「おじさんの手紙」
《発問》 ○親切度を数値（%）で確認していたのが、心の変化を知る手がかりとなっていた。 ○最初と最後の同じ質問が、児童の変容を見取る有効な手立てになっていた。 ○中学校での生活を想定した発問が、自分事として真剣に考えられる発問になっていた。特に、声をかけるのも親切、あえて声をかけないのも親切というように本音が出ていた。 《対話》 ○書く力も、話す力もすばらしかった。 ○グループの人数が３人で、スムーズだった。対話後にワークシートに書き込む児童もおり、他者理解にもつながっていた。 ●先生と児童のやりとりでなく、児童同士でのやりとりだけでも、十分深めることができる児童だったと思う。	《発問》 ○「もしお客さんがいなかったら」という葛藤部分で、児童の本音を引き出そうとした意図とその効果がすごかった。 ○生活場面（廊下歩行）での「我慢する」という言葉を取り上げて、問い返した部分から、深まりが見えた。 ●補助発問に比べ、中心発問があっさりとした感じであった。この部分のつなぎを工夫する必要があった。 《対話》 ○先生と児童の対話は，発達段階を超えるレベルに達していると思った。 ●児童は、もっと自分の考えを話したいと思っていたと思う。ゆさぶり発問の後に、すぐに対話にもっていくと、もっと児童の本音が出ていたのではと思った。
指導・助言　（■　改善ポイント）	指導・助言（■　改善ポイント）
○主題に関する児童の実態アンケートから、対話を通して自己を見つめ直す授業構成になっており、効果的であった。 ○ジョルジュじいさんの親切度が 100%だとすると、自分たちは少しでもそこを目指していけばいいというスケールの使い方もうまかった。 ○ゆさぶりの補助発問が続いたが、すべて親切について考えさせることにつながっておりとても効果的であった。 ○今日の授業では，その子なりの親切についての考え方の変容がみられた。この価値項目は，中学校での思いやり・人間愛まで発展していくので、この６年生の子どもたちがどのように育っていくのか今後の成長を期待したい。 ■学習指導要領では言語活動を重要視している。道徳の言葉のやり取りは，解説の 93～95 ページに示されている。今日の授業でも言語活動が組み込まれている。書く作業は時間がかかるので、45 分に収めるためにどの場面で書かせるのか、吟味が必要である。中心発問があっさりしていたので、書かせるのであれば、最後のところでじっくりと時間をかけてもよかったと思う。	○板書がとにかくすばらしかった。 ○導入部分でのアンケート結果で、価値項目について，今日は何について考えるのかということが明確になっていた。そして，後半部分の自分事として捉える手立て，視点にもなっていた。 ○手紙をもらっていい気持ちになった。つまり、きまりを守って良かったというのが、この教材からのメッセージである。授業の中でも、その部分に共感させてから、きまりの意義に結びつけていく構成がすばらしかった。 ○「もしお客さんがいなかったら」という概念を砕く発問が有効的に機能していた。 ■なぜ小学生は電車の中で静かにすることができたのでしょう」という中心発問プラス「もしお客さんがいなかったら」、ここを時間をかけ対話させる。後半部分の廊下歩行については、「廊下歩行についてはどうする？」というくらいの軽重をつけて取り扱ってもよかった。（時間管理） ○この資料の最後に、「参照　小学校道徳の指導資料とその利用　文部省」というのが小さく書かれている。この内容も今日の授業に関連するので、参考にしてほしい。

（２） 調査からの成果と課題

①アンケートの調査結果（内容項目に関する達成度調査）

内容項目		児童			保護者			教師		
		5月	12月	総合評価	5月	12月	総合評価	5月	12月	総合評価
①	善悪の判断、自律、自由と責任	71%	85%	○	75%	78%	○	65%	73%	△
②	正直、誠実	72%	83%	○	76%	78%	○	80%	80%	○
③	節度、節制	80%	91%	◎	74%	77%	○	62%	75%	○
④	個性の伸張	78%	91%	◎	68%	73%	△	55%	67%	△
⑤	希望と勇気 努力と強い意志	84%	92%	◎	71%	75%	○	62%	72%	△
⑥	真理の探究	68%	84%	○	73%	73%	△	60%	65%	△
⑦	親切、思いやり	73%	86%	○	76%	79%	○	67%	77%	○
⑧	感謝	86%	92%	◎	68%	71%	△	63%	70%	△
⑨	礼儀	76%	89%	◎	75%	77%	○	70%	78%	○
⑩	友情、信頼	80%	91%	◎	76%	80%	○	73%	75%	○
⑪	相互理解、寛容	80%	88%	◎	72%	74%	△	63%	73%	△
⑫	規則の尊重	75%	86%	○	77%	78%	○	65%	75%	○
⑬	公正、公平、社会正義	91%	95%	◎	75%	77%	○	68%	70%	△
⑭	勤労、公共の精神	81%	88%	◎	66%	69%	△	72%	78%	○
⑮	家族愛、家庭生活の充実	74%	85%	○	79%	82%	○	72%	75%	○
⑯	よりよい学校生活、集団生活の充実	83%	91%	◎	80%	83%	○	70%	77%	○
⑰	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	90%	94%	◎	67%	69%	△	67%	72%	△
⑱	国際理解、国際親善	74%	88%	◎	62%	65%	△	62%	65%	△
⑲	生命の尊さ	88%	94%	◎	79%	83%	○	72%	77%	○
⑳	自然愛護	88%	94%	◎	79%	82%	○	63%	67%	△
㉑	感動、畏敬の念	77%	85%	○	73%	76%	○	63%	67%	△
㉒	よりよく生きる喜び	94%	99%	◎	73%	77%	○	62%	67%	△

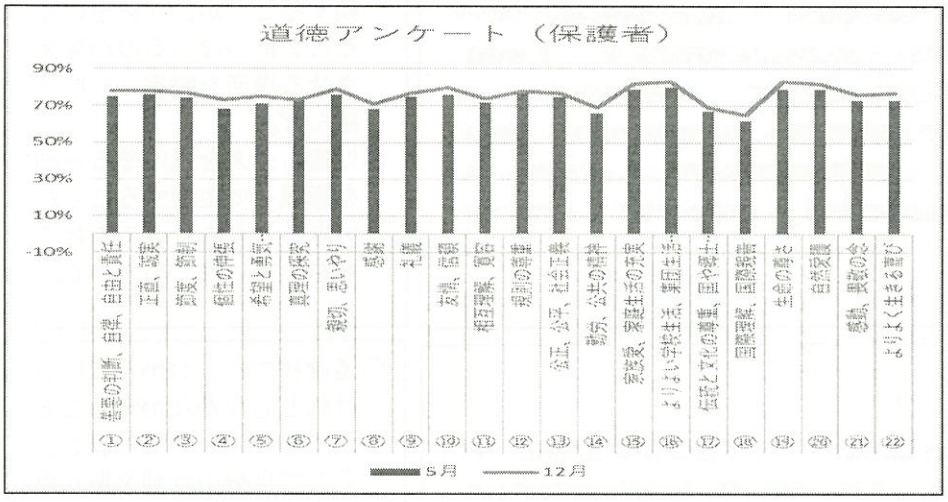
②アンケート調査結果と考察《児童》



考察《児童》

○全体的に高い評価となっている。
○「強い意志」の項目が８％向上した。
▲「規則の尊重」「親切・思いやり」は、全体と比較すると低い傾向にあった。

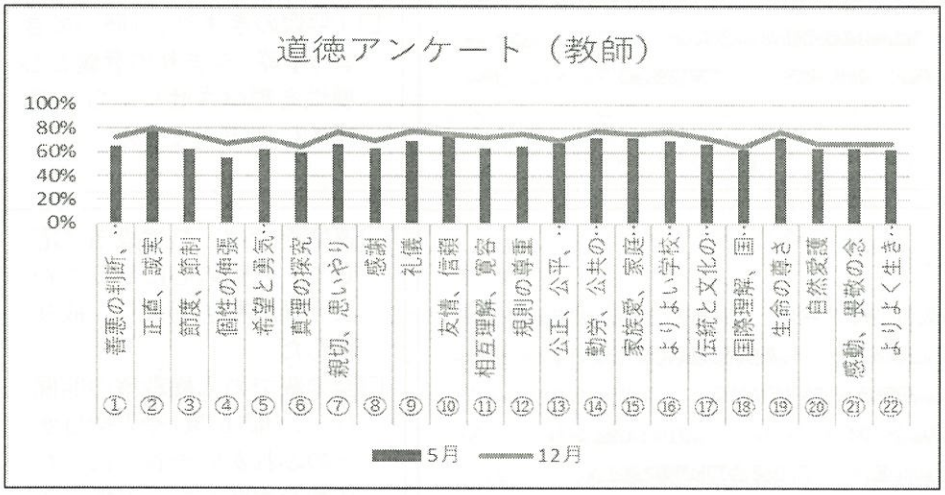
③アンケート調査結果の考察《保護者》



考察《保護者》

○ほぼすべての項目が改善傾向にあった。
○「個性の伸長」が５％向上した。
▲「勤労、公共の精神」が低かった。
▲児童の評価との差異がある項目が多かった。

④アンケート調査結果の考察《教師》

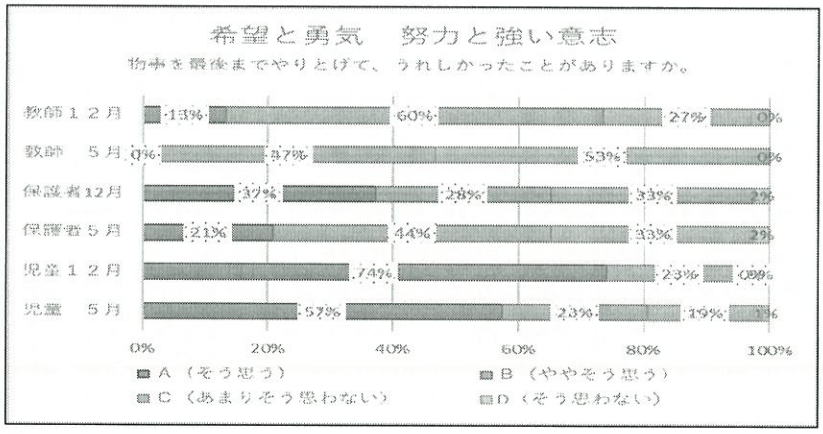


考察《教師》

○ほぼすべての項目が改善傾向にあった。
○「強い意志」が１０％向上した。
▲全体的な評価は低い傾向にある。
▲「正直・誠実」に変容が見られなかった。

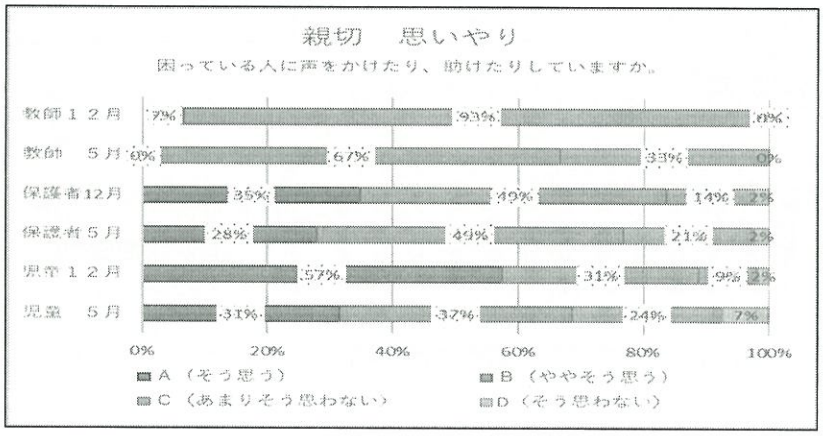
児童は、学校と家庭とでは実態が違う場合もある。よって、学校での重点的な取り組み事項を家庭に周知したり、また家庭での課題を共有化したりしながら、双方向から児童の道徳性を養うことができるよう、教育活動を充実させる必要がある。

⑤重点内容項目に関する考察



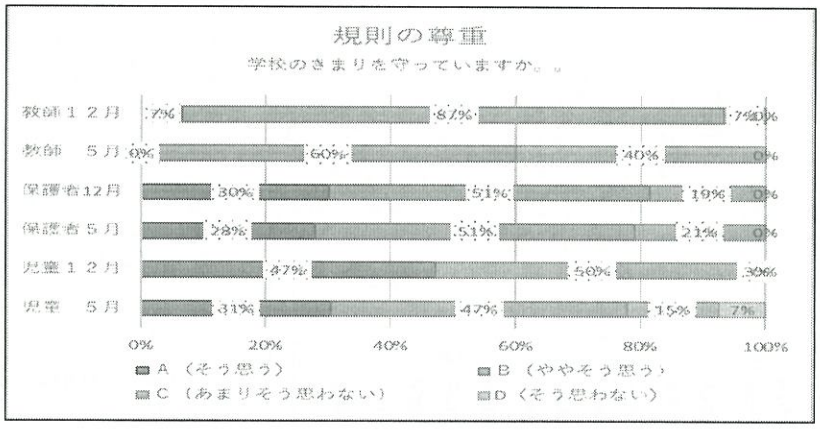
○道徳科では、偉人たちの生き方を通して、努力することの大切さを感動的なストーリーで学ばせることができた。

□マラソンタイムの運用方法を見直した結果、仲間と励まし合い、最後までやり遂げたという成功体験を味わわせることができた。



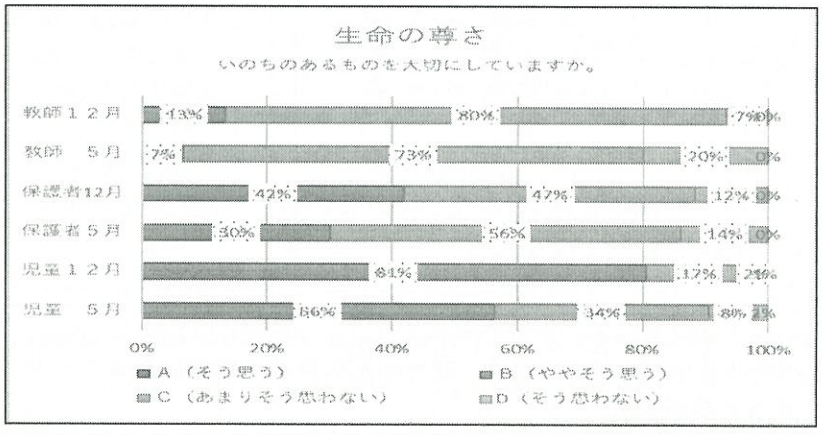
○道徳科では、授業の中でも、実生活場面でどのように行動することが、人を思いやることにつながるのか考えさせる場面を設定して取り組んだ。

□児童も、人を思いやる言動を意識して生活することができるようになってきたことを自覚しはじめている。



○道徳科では、わかっているけれどもなかなか守ることができない人の心の弱さ、そして自分の行動を振り返ることができる場を設定して取り組んだ。

□「学習のきまり」「藤小のきまり」等、きまりの意義と必要性を理解させながら、継続的に指導してきた。



○道徳科では、発達段階に応じて、児童の心にしみこむような教材を選択し、取り組んだ。

□全学級での人権教室の開催（いじめ防止策）や人や自然とのふれあいを目的にした活動を実践したことで、「いのち」についても考えることができるようになった。

５　まとめと今後に向けて

児童の道徳性を育てることや自己の生き方を見つめさせるという道徳教育の目標は普遍的である。これまでの研究を通して、道徳科の授業を実践するうえで、これまでと変わらない点、そして変えていかなければいけない点が明らかになり、私たち教師が目指すべき方向性が見えてきたように感じる。その一つの方向性が、いかに自分事として考えさせることができるかという点である。そのためには、登場人物がとった行動の本となる心への自我関与、どうしても解決しなければいけないと思える必要感のある問いとの出会わせ方、そして役割演技を取り入れた体験的な学習等、教材のもつ価値と有効な指導方法を適宜結びつけながら、授業を充実させていかなければならない。また、道徳科で学んだことが実生活に役立つという経験知を意図的に教育課程の中に位置付けていくことで、要としての道徳科の役割が高まり、児童に生きて働く力が身に付き、道徳性も養われると考える。

本校の児童の心は着実に育っており、また道徳科の授業にきちんと向き合って取り組むことの大切さにも気付いている。今後も、児童が考えたくなる授業、本音で語り合える道徳科の時間となるように、教師も児童も一緒になって、心の世界を探検し、よりよい生き方についてともに考えていけるよう、さらに研鑽に励んでいきたい。

参考文献

考え、議論する道徳に変える指導の鉄則５０　２０１７年　明治図書　著者　加藤　宣行
考え、議論する道徳に変える発問＆板書の鉄則４５　２０１８年　明治図書　著者　加藤　宣行
道徳の授業を変える教師の発問力　２０１６年　東洋館出版社　著者　加藤　宣行
子どもに寄り添う道徳の評価　２０１７年　光文書院　編者　加藤　宣行
道徳科カリキュラム・マネジメント（小学校編）２０１７年　学事出版　編著　田沼　茂
子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業　２０１６年　図書文化　編著　柳沼　良太
問題解決的な学習で創る道徳授業　２０１７年　明治図書　編者　柳沼　良太　山田　誠
「特別の教科　道徳」の授業と評価実践ガイド　２０１８年　明治図書　編著　服部　敬一
評価を位置付けた授業プラン＆通知表文例集　２０１８年　明治図書　編著　諸富　祥彦
「特別の教科　道徳」の評価通知表所見の書き方＆文例集　２０１８年　日本標準編著　尾高　正浩
道徳科Ｑ＆Ａハンドブック　２０１８年　公益財団法人　上廣倫理財団　編集者上地　完治他
道徳教育（月刊誌）　明治図書

第２学年２組　道徳科学習指導案

日　時
対　象　２年２組　２０名
指導者

１　主題名　「まわりの人のことを考えて」　Ｃ－１０　規則の尊重

２　教材名　「おじさんからの手紙」（日本文教出版）

３　ねらい　電車の中での小学生の様子やおじさんの心情を考えることを通して，約束やきまりを守ることの大切さに気付き，みんなが気持ちよく生活しようとする態度を養う。

４　主題設定の理由

（１）学習指導要領との関連

内容項目Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること	
第１学年及び第２学年	約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にすること。
第３学年及び第４学年	約束や社会のきまりの意義を理解し，それらを守ること。
第５学年及び第６学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り，自他の権利を大切にし，義務を果たすこと。
中学校	
〔遵法精神，公徳心〕	法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよい在り方について考え，自他の権利を大切にし，義務を果たして，規律ある安定した社会の実現に努めること。

（２）ねらいとする道徳的価値について

生活する上で，約束やきまりはたくさん存在している。そして，その約束やきまりは，人々が安全にかつ安心して生活していく上で必要不可欠なものである。また，約束やきまりは，よりよい人間関係づくりの上でも大切であり，集団や社会のために自分に何ができるか・自分が何をすればよいのかを考え，進んで約束やきまりを守ろうとする態度を養うことは，とても重要である。

児童は，成長していくにつれ，社会や集団の一員としての態度や行動が求められるようになる。そして，様々な約束やきまりに触れる中で，約束やきまりを守ることが，周りの人のことを考えた態度や行動の上に成り立ち，気持ちよく安全に生活するために大切だという意識を高めていく。その中で，約束やきまりを守り，誰もが気持ちよく過ごしていけるように規範意識を高めることが重要となる。

まだ自分が中心となる態度や行動が見られる発達段階ではあるが，自分だけではなく周りの人も安心で安全に過ごせるための約束やきまりについて考え，しっかりと守ろうとする意識や態度を育成することが大切である。そして，みんなで使う物や場所等が身近にたくさんあることを理解し，大切に使ったり工夫して使ったりする態度を身に付けられるように指導することが必要である。

（３）児童の実態

昨年度に引き続き担任している学級である。１年生の時から，並び方や廊下の歩き方等，学校生活を送る上で必要な約束やきまりの指導を繰り返し行っている。正直で素直な児童が多く，指導されると自己の行動を振り返って直したり，規範意識をもち，友達の手本になる行動に努めようとしたりすることができる。

次に，児童に約束やきまりについていくつかアンケートを実施した。

《事前アンケート調査》

① 身の回りにはどんな約束やきまりがありますか。	
・廊下を歩く。	・チャイムが鳴ったら静かにする。
・ポーチを歩く。	・話を聞く。（話しているときには口を挟まない）
・あいさつをする。	・呼び捨てをしない。（「くん，さん」をつける）
・掃除のときは静かにする。	・鉛筆を正しく持つ。
・足を床に付けて座る。	・手を膝に付けて座る。
・ごみはごみ箱に捨てる。	・悪口を言ったり暴力をしたりしない。
・並ぶ時横入りをしない。	・静かに並ぶ。
・授業中のぞき見をしない。	・授業中おもしろくても騒がない，ふざけない。
・使ったものは元の場所に戻す。	・靴をそろえて靴箱に入れる。
・体育館のステージには上がらない。	・図書室では静かにする。
・道路は歩く。	

② 約束やきまりはなぜ守らないといけないと思いますか。
・走ったら，ともだちにぶつかるかもしれないから。
・怪我をするかもしれないから。
・事故にあうかもしれないから。
・授業中にしゃべったら，人に迷惑がかかるから。
・人の邪魔になるから。
・周りの人が困るから。
・守らないとだめだから。
・みんなのためにあるから。
・自分のためにあるから。
・勘違いをおこしてしまうかもしれないから。
・叱られるから。

③自分は約束やきまりを守っていると思いますか。
◎よく守っている…２人
・人のことを考えているから。
○守っている…１８人
・ときどき守るときもあるし，守らない時もあるから。
・たまに廊下やポーチを走っているから。
・言葉で言っていてもやらない時があるから。
△守っていない…０人

児童の様子を見ていると，気持ちが高揚していたり遊びに夢中になっていたりする場面では，約束やきまりを忘れて自分勝手な行動が見られることもある。学年合同のバス乗車を振り返ると，周りの友達が（静かに過ごしたい）（寝て過ごしたい）と思い，「静かにしてください。」と声を上げると，一瞬は静かになるがまた騒がしくなる場面が何度もあった。騒がしくしている児童は，自分が周りの人から見て騒がしいこと・自分が周りの人の迷惑になっているということに気付くことがなかなかできないという現状である。また，毎月の児童の様子調べのアンケートでは，「廊下を歩いている」の項目で「はい」と答える児童が多いが，実際の様子を見ると，児童の意識とは異なっている。

以上を踏まえると，児童は，生活上の大切な約束やきまりは理解しているものの実際に行動に移すのが難しいということがうかがえる。まだまだ自分の気持ちや行動が優先され，周りの様子が見えていないことや周りの人に思いを寄せて考えられないことが原因であると考えられる。

そこで本時では，周りの人の立場に視点を移し，公共の乗り物に乗った時の場面について考えさせる。態度や行動が，周りの人にどんな印象を与えるか・周りの人をどんな気持ちに

させるのかを考えることを通して，約束やきまりの背景には周りの人のことを考える気持ちがあることに気付かせたい。そして，みんなで使う物や場所を大切にし，約束やきまりを守って気持ちよく使いたいという態度を育てたいと考える。

（4）教材について

①あらすじ

見ず知らずのおじさんから小学生に宛てて手紙が届く。「電車の中での小学生の態度がとても立派で嬉しくなった」という内容であった。先に電車に乗っていたおじさんは，小学生たちが電車に乗り込んできた時に，（遠足の時の子どもたちは大騒ぎするだろうな。嫌だな。）と思い，目をつむった。しかし，いつまでたっても静かなので，不思議に思って目を開けた。すると，嬉しそうな顔で口をしっかりと結び静かにしている小学生が目に飛び込んできた。降りるまで小学生の立派な態度は続き，つられて周りの乗客もにこにこしていた。おじさんは，その日１日，とても気持ちよく過ごした。

③ 教材分析

児童は，公共のバスや電車に乗る経験が少なく，遠足の際に初めてバスに乗る子もいる。そのため，乗り物を利用する際には，周りの人に気を付けるという経験があまりない。この学習後には，生活科の校外学習で電車に乗る体験をするので，公共の乗り物を利用する時には，自分の気持ちだけを考えて行動するのではなく，自分の態度や行動が周りの人にどのように影響するのかを理解した上で，自分も周りの人も気持ちよく安全に過ごせることを意識して電車に乗ることができるようにさせたい。また，おじさんが「楽しい時の子どもは騒がしいものだ」と最初思ったように，公共の場には，いろいろな状況や考え方をもった人がいることにも触れ，迷惑になる態度や行動をしてはいけないことも理解させたい。

本教材は，登場人物の小学生を自分に置き換えて考えやすい教材である。また，おじさんからの手紙により，約束やきまりを守ることで周りの人が気持ちよく過ごせたということも理解することができる。約束やきまりは存在しているから守るのではなく，自他ともに気持ちよく生活していく上で必要不可欠なものであると考えることができる。

この教材をもとに，公共の場における自分たちの態度や行動が，周りの人々のことをよく考えたものであるのかを振り返らせたい。そして，日常生活の場面で，約束やきまりを守る自分の態度が，自分も周りの人々も気持ちよく安全に過ごせる大切なことと理解し，積極的に守っていこうとする態度を育てたい。

5　研究主題との関連

「対話的な学びを充実させるための授業展開の工夫」
～各教科と道徳科の授業を通して～

導入では，約束やきまりをなぜ守るのかを取り上げる。身近な生活場面を想起させることで，身の回りにたくさんある約束やきまりについて，児童がどんな思いや考えで守っているのか明らかにし，学習後の道徳的価値の深まりを捉えさせたい。

展開では，「もし他に乗客がいなかったら，おしゃべりをしてもよいのではないか」と発問を投げかけ，周りの人がいないときの児童の判断を問う。小さい声ならおしゃべりをしてもよいという考えや，運転手さんやこれから乗ってくるお客さんのことを考えておしゃべりをしないという考えなど，多様に出てくると思われる。登場人物に共感させながら，約束やきまりを守れる時と守れない時があることについても触れたい。発表ばかりではなくつぶやきを拾い，全体で交流しながら，児童の考えに「なぜ？」と問い返したり，「～だったら」と揺さぶったりすることで，児童一人一人の思いや考えを広げたり深めさせたりしたいと考える。

また，展開の後半では，低学年の児童にとって具体的に考えられる身近な場面での約束やきまりを取り上げて交流する。全体交流を通して，自分では気付かなかった考えや「なるほ

ど」と思う友達の意見に触れさせながら，児童一人一人の考えを深めさせたい。

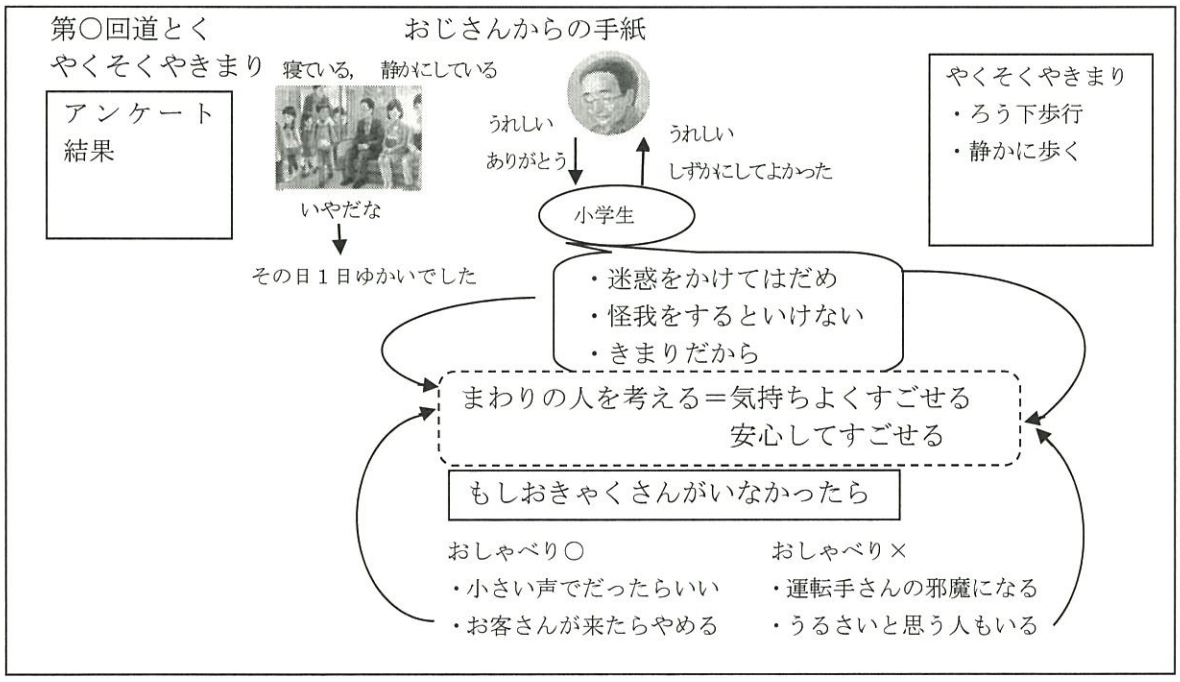
終末の振り返りでは，児童一人一人がこれまでの生活を振り返るとともに，これからの生活へ向けて，積極的に約束やきまりを守っていこうとする意欲や態度を高めさせたい。

6　本時の展開

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	・指導上の留意点　◇評価
導入 5分	1　約束やきまりについて発表する。 ○約束やきまりはなぜ守らないといけないのでしょう。 ・しかられるから。 ・自分やみんなのためにあるから。 ・けがをさせないように。 ・迷惑をかけないために。 やくそくやきまりを守ることについて考えよう。	・事前アンケートを活用し，道徳的価値への方向付けをはかる。
展開 30分	2　教材「おじさんからの手紙」を読んで話し合う。	・範読をする。
	○おじさんはどうして手紙を書いたのでしょう。 ・立派な態度を見て嬉しくなった。 ・静かにしてくれてありがとうと思った。 ・安心して電車に乗ることができた。	・挿絵で，電車の乗客の様子に着目させる。 ・おじさんが不愉快な気持ちから愉快な気持ちになったことを押さえる。 ・小学生の態度が，おじさんや他の乗客を気持ちよくさせたことに気付かせる。 ・手紙をもらった小学生に思いを寄せ，小学生も気持ちがよくなったことに触れる。
	◎なぜ小学生は電車の中で静かにすることができたのでしょう。 ・きまりだから。 ・他のお客さんに迷惑をかけてはいけない。 ・困らせてはだめ。 ・けがをするかもしれないから。	・揺れても声を出さなかった小学生の気持ちを考えさせる。 ・どの理由からも『周りの人のことを考えている』という共通点を見出す。 ・小学生たちが，気持ちよく安全に電車に乗れることを考えていることに気付かせる。
	（もしお客さんがいなかったら）	・お客さんがいなかった時のことを考えさせる。 ・「もし他に乗客がいなかったらどうするか」「おしゃべりをしてもよいのではないか」等の視点を与え，児童の考えを揺さぶる。 ・いろいろ出された意見を整理し，周りの人のことを考えた態度や行動につながっていることを確認する。

	3　身近な生活を振り返り，約束やきまりについて今まで自分はどうしていたのかを話し合う。 ・廊下歩行 ・ポーチ歩行 ・教室移動は静かにする。 ・図書室では静かにする。　…等	・事前アンケート「身の回りにある約束やきまり」から考えさせる。 ・どの約束やきまりも，自分や周りの人が気持ちよく過ごすために大切であることに気付かせる。 ・「なぜ？」「どうして？」などの問い返しをして，深く考えさせる。 ・約束やきまりを守ってよかったことも振り返らせたい。 ・いろいろな考えを発表し合い，全体で交流する。 ・約束やきまりの中には，守りたくても守れない時があることについて話し合う。
振り返り 10分	4　授業の振り返りをする。 ○今日の学習で考えたことを書きましょう。	・ワークシートに書かせる。 ◇【評価の視点】 約束やきまりを守ることが大切であることを理解し，周りの人のことを考えて約束やきまりを守ろうとしている。　（ワークシート，発言）

7　板書計画



第６学年２組　道徳科学習指導案

日　時

対　象　６年２組　２２名

指導者

１　主題名　「深い思いやり」　Ｂ－７　親切，思いやり

２　教材名　「最後のおくり物」（日本文教出版）

３　ねらい　ジョルジュじいさんがロベーヌにしたことを考えることを通して，相手の立場に立って，進んで親切にしようとする道徳的実践意欲，態度を育てる。

４　主題設定の理由

（１）学習指導要領との関連

内容項目Ｂ　主として人との関わりに関すること	
第１学年及び第２学年	身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。
第３学年及び第４学年	相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
第５学年及び第６学年	誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。
中学校	
〔思いやり，感謝〕	思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

（２）ねらいとする道徳的価値について

自分のことばかりを考えたり，自分の思いだけを主張したりしていては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりとは，相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには，相手の存在を受け入れ，相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には，相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して，励ましや援助をすることである。また，単に手を差し伸べることだけではなく，時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。つまり，相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待されている。また，人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え，思いやりの心とそれが伴った親切な行為を，児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。

（３）児童の実態

昨年度から担任している学級である。明るく素直で，休み時間は外で元気に遊んでいる児童が大半である。授業では，自分の意見を進んで発表する児童が多い。友達の考えをうなずきながら聞くなど，しっかりと受け止めようとする姿勢がある。

６年生となり，委員会や清掃，縦割り班，行事などで下学年と接する機会が多く，困っている

子に声をかけたり，手を差し伸べ助けたりしている。しかし，学級の中では，仲の良さで親切の度合いを分けていることがあったり，教師に声をかけられたから助けてあげているという状況が見られたりして，相手のことを親身に考えての行動ではなく，自分の心情によって，使い分けているように感じている。実際に自分本位な言動で，友達とトラブルになっている児童もいた。

このようなことから，どんな場面でも思いやりの心をもち，相手の立場になって物事を考え行動するというところまでは至っていない。

《事前アンケート》

①道徳の授業は　好き２２名　　きらい０名
○いろいろな話があって，それについて話すとこれからは～しようと思うから。 ○正解・不正解がないところやみんなの意見に納得したり，共感したりするのが楽しいから。 ○自分の考えを見つめ直せるし，心がきれいになるから。 ○自分のことと他の人のことを比較することができ，自分の足りないことを見直せるから。 ○その話のよいところや悪いところを今後の生活に生かそうと思うから。
②親切とは何ですか？
・人のことを思って行動すること。 ・優しく接して，その人がどう思っているのかを考え，行動に移すこと。 ・困っている人を助けたり，席を譲ってあげたりすること。 ・けがをしたときに大丈夫？と声をかけること。 ・困っている人がいたら，積極的に助けること。 ・人に優しく接して，誰にでも差別しないで，話したり，行動したりすること。 ・相手のことを思って，相手のために何かをしてあげること。 ・自分より年下の人やお年寄りの人を助けたり，気を遣ったりしてあげること。
③思いやりとは何ですか？
・自分が相手の立場になり，気を配ること。 ・自分の親切な思いを相手に与えること。 ・周りのゴミを拾ってゴミ箱に捨てること。 ・お年寄りの人に席を譲るようなこと。 ・人間や動物を大切にすること。 ・相手のことを考えて，優しい言葉をかけること。 ・相手が嫌がることなどはしない。相手のことをきちんと考えること。 ・自分がいいと思ったら，すぐ行動するのが思いやりだと思う。
④親切にされると　うれしい２２名　うれしくない０名
・他の人に親切にされると心がほっとするから。 ・親切にすると自分にもいろいろしてもらえるから。 ・親切にされると自分もうれしいし，自分でもやってみようと思うから。 ・親切にされると自分も相手もいい気持ちになるから。 ・困っているときに優しく接してもらえるとうれしいから。 ・自分が困っているときに助けてもらえると「自分も今度そうしよう」と優しい気持ちになれるから。 ・うれしいけれど，親切すぎると気を遣っているような感じになる。

・自分のことを考えてくれる人がいるんだなと思うから。
⑤親切にされてうれしかったことは何ですか？
・昼休みとかに，一緒に遊ぼうとか言われてうれしかった。 ・お腹が痛かったとき，友達が「保健室に一緒に行こうか」と言ってくれてうれしかった。 ・水をこぼしたときに，友達が一緒に拭いてくれた。 ・大会で悔しくて泣いていたときに「次，がんばろうね」と言われたこと。 ・筆箱がないときに，消しゴムや鉛筆などを貸してもらったこと。 ・私が困っているときに助けてくれたり，物を忘れたときに貸してもらえたりしたこと。 ・電車の中で席をつめて，スペースを作ってくれたことがうれしかった。 ・荷物を持って歩いていたら，後ろから来た友達が一緒に持ってくれたこと。
⑥親切な行為をしたことは？　あります２２名　ありません０名
⑦どんな親切な行為をしましたか？
・他の人が会計でお金を払っているときに落としたお金を拾ってあげたこと。 ・友達が買いたそうな顔をしていたので，「ここで買うか？」と声をかけて，友達を最後までせかさないで待ったこと。 ・友達がけがをしたときに手当てをしたり，絆創膏をあげたりしたこと。 ・困っている人に教えたり，けがをしたときにすぐに助けたりしたこと。 ・バスで席を譲ったり，荷物を持ってあげたりしたこと。 ・道路でおばあちゃんが自転車ごと倒れていたから助けてあげたこと。 ・函館の路面電車で席を譲ったこと。 ・小さい子が転んで泣いていたから，慰めて，絆創膏を貼ってあげたこと。

親切と思いやりの意味の線引きが難しいが，おおむね理解できていることがわかる。思いやりとは，相手の心情や状態を察して，同情したり共感したりすることである。親切とは，相手が求めている，もしくは必要とするであろう手助けを予測して，実際に行うことである。親切な行為に対して相手が感謝している場合は成立するが，相手が嫌に感じればおせっかいとなる。思いやりは心の中で相手を思うことで，親切は実際に行動に移すことという違いもある。上記の親切に関するアンケート調査の結果から，親切にされると嬉しい気持ちになるのがよくわかる。

また，本学級で行った道徳アンケート調査（内容項目ごと）によれば，「親切，思いやり」の理解は８３％，行動は７３％で，頭では理解できているが行動に移すのにはためらいがあるということがわかった。

人間理解の立場から見ると，理解はしているができないということはよくあることである。自分自身の時間的，精神的な余裕，相手との関係性，置かれた状況の軽重などによって影響を受け，つい自己中心的な行動を取ってしまうことは多い。しかし，今後よりよく生きるためには，親切はする側もされる側も嬉しいものであり，その親切にする相手は，仲がいいとか家族だとかに限らず，出会ったさまざまな人に対して損得なしで行っていくものだという意識をもたせたい。相手を知り，相手に対して思ったことを児童が積極的に行動に移していくという態度を育てていくことは，小学校生活のまとめに入るこの時期には大変意義深いことだと考えている。

（４）教材について

①あらすじ

俳優になりたいロベーヌは，劇団の養成所に通うお金がなく，養成所の練習をメモをとりながら見ていた。守衛のジョルジュじいさんは，ロベーヌの思いを知り，覗き見するのを見守っていた。ある日，ロベーヌのアパートのドアの下に手紙とお金が置いてあった。差出人がわからず困惑するロベーヌであったが，相談したジョルジュじいさんに背中を押され，そのお金で養成所に通うことにした。徐々に実力を身につける日々だったが，おくり物（月謝代）が届かず，月謝が払えなくなった。ある日の夜ふけ，人の気配を感じ外を覗いてみると，何かを置いている人影が見えた。その人は，ジョルジュじいさんであった。ジョルジュじいさんは，そのまま雪の中に倒れた。ロベーヌは，急いで病院へ運んだ。ジョルジュじいさんは，体をこわして休んでいたのに，無理に働き，ロベーヌにおくり物を送っていたのだ。ロベーヌは，身寄りのないジョルジュじいさんの息子だと嘘を言い，練習を休んで看病した。三日目の夜，ロベーヌは，ジョルジュじいさんが，ロベーヌの姿に感動し，働くことがつらくてもお金を送り続けることに幸せを感じていたという思いを知る。そして，ジョルジュじいさんは息を引き取った。ロベーヌは，もう一度手紙を読み，涙を流しながら何かを決意するのであった。

②教材の分析

昨年度「命のアサガオ」という教材を学習した際，生命に関わる内容であったため，児童が泣き出してしまい，授業が思うように進まないことがあった。本教材もジョルジュじいさんが最期をむかえる場面があるので，生命の尊さに配慮しつつ，内容項目から外れないようにしたい。

ジョルジュじいさんは，見ず知らずのロベーヌに対して，損得などを無視した思いやりあふれる親切な行動をとっている。相手から感謝される，感謝されないに関わらず，ジョルジュじいさんは，ロベーヌの夢や困っていることを知り，ロベーヌの夢を叶えてやりたいという深い思いやりで親切な行動をとり，ロベーヌの心を動かした。相手の思いを知り，自分のできることを素直に行動に移すことで，人間関係をより円滑にすることができるので，本教材をもとに，思いやりのある行動（親切）を学び，今後の生き方の土台とできるように指導していきたいと考えている。

5　研究主題との関連

「対話的な学びを充実させるための授業展開の工夫」
～　各教科と道徳科の授業を通して　～

導入で，自分の親切さについて振り返ることによって，教材文の登場人物とのつながりを意識し，自分事としてとらえやすくなるのではないかと考える。

展開では，まず，教材の状況を整理させる。俳優になりたいと願うロベーヌの熱心さがジョルジュじいさんの心を動かしたことをおさえたい。ただ，ジョルジュじいさんの親切な行動は，私たちの日常の範疇を超える行動であるため，児童にはなぜそこまで親切にするのか理解できないと考える。そこで，なぜジョルジュじいさんはそこまで他人のロベーヌのために親切にできるのか，一人一人に意見をもたせ，意見交流させながら，親切とは何かを考えさせたい。また，題名にもある「最後のおくり物とは何か」についても，それぞれの考えを対話的な学びにより深められるようにしていきたい。

展開の後半では，教材から日常生活に戻し，親切とはどういうものなのかを考えさせる。そして，どんな人にでも思いやりの気持ちをもち，行動することの尊さを考えさせ，道徳的実践に結び付けていきたい。

振り返りの場面では，授業の中で学んだ親切について思いを深めさせ，今後のよりよい生き方へとつなげていきたい。

6　本時の展開

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	・指導上の留意点　◇評価
導入 5分	1　自分の親切さについて考える。 ○親切にするとはどういうことですか？ ・困っている人や友達を助けること。 ・相手を思いやること。 ○自分の親切度は５段階で何点ですか？ ・５：誰にでも親切にしているから。 ・４：どちらかというと親切にしているから。 ・３：親切にするときもしないときもあるから。 ・２：誰かがやってくれるから。 ・１：面倒くさいのでしていないから。 2　今日のめあてを確認する。 親切にすることについて考えよう。	・事前のアンケートを参考にする。 ・自分が思う親切な行為について考えさせる。 ・挙手させ，自分の親切度を振り返らせる。 ・親切について考えていくことを確認する。
展開 30分	3　「最後のおくり物」を読んで話し合う。 ○親切な人はいましたか？ □ジョルジュじいさん ・守衛なのにロベーヌの行為を見逃したから。 ・ロベーヌのためにお金を送ったから。 ・ロベーヌのために自分を犠牲にしてまで働いたから。 □ロベーヌ ・ジョルジュじいさんの息子でないのに，息子だと嘘をついて看病したから。 □ほかの守衛さん ・ジョルジュじいさんのお願いを守ってくれたから。 ◎どうしてジョルジュじいさんは，見ず知らずのロベーヌに親切にしたのでしょうか？ ・ロベーヌの夢を聞き，叶えてあげたいと思ったから。 ・ロベーヌの思いを知り，自分にできることをし	・教師が範読する。 ・守衛という仕事内容をおさえる。 ・登場人物の親切な行為を整理する。 ・ワークシートに書かせる。 ・小グループで意見交流してから，全体で発表させる。

	てあげたいと心が動いたから。 ・自分も俳優になりたい夢があり，その夢とロベーヌの夢を重ねて考えたから。 ・ロベーヌが熱心にメモをとる姿を見て，応援せずにはいられなかったから。 ・ロベーヌのために行動していることが幸せだったから。 ○最後のおくり物とは何でしょう？ ・お金と手紙 ・ジョルジュじいさんの思い ・ジョルジュじいさんの命をかけた応援 ・ジュルジュじいさんの生きがい 4　親切について考える。 ○親切にするのが難しいのはどういうときでしょう？ ・関わりが少ない人のとき。 ・急いでいたとき。 ・関わっていいかどうかわからないとき。 ○親切とはどういうことですか？ ・心から相手を思い行う行動のこと。 ・家族や友達でもなくてもしてあげる親切のこと。 ・何かせずにはいられないという気持ちを行動に移すこと。 ・相手の立場になって考えたり，相手の幸せを願ったりする気持ちを行動で示すこと。 ・相手のことを知り，何かしてあげたいという気持ちを行動に移すこと。	◇【評価の視点１】 ワークシートに自分の考えを書き，それをもとに意見交流をしている。 （発言・ワークシート） ・ジョルジュじいさんとロベーヌのそれぞれの思いをもとに，深めさせる。 （なぜ名のってお金をわたさないのか） （なぜ倒れるほど働いたのか） （ロベーヌの姿に何を見ていたのか） （ロベーヌにとってジョルジュじいさんはどんな存在か） ・物ではなく心であることに気付かせる。 ・受け取った側の思いにもふれる。 ・日常生活の中で，親切にしようと思っていても，なかなかできなかった場面を想起させる。 ・もしも、放課後に、教室で一人で泣いている人がいたら、あなたはどうしますか。 ・導入時の自分の考えと比較させる。
振り返り10分	5　今日の授業で学んだことを書き，発表する。 ・今まで親切にするのは，仲のいい人や好きな人とかだったけど，これからはどんな人にも進んで親切にしていきたいと思う。 ・親切は，される人にもする人にも喜びがあるとわかったので，親切にしたいという心が動いた時には，ためらうことなく行動したいと思う。 ・相手にとっていいと思うことは，これからは迷うことなく行動してみたいと思う。	・ワークシートに書かせる。 ◇【評価の視点２】 相手の立場になって考え，進んで親切にしようとしている。 （ワークシート・観察・発表）

7　板書計画

第２２回道徳

教材「最後のおくり物」→お金？手紙？

ジョルジュじいさんの思い。生き続ける

親切な人

・困っている人や友達を助ける人
・思いやりがある人

親切にするとは？

ジョルジュじいさん　　ロベーヌ

名乗らず
おくり物

ジョルジュじいさん

守衛　　感謝　　俳優が夢・貧しい→知る

無理して働く
許してあげる　熱心さにうたれた　→　　覗き見
↓
おくり物
↓
養成所

親切にしたのはなぜ？
・メモをとる姿を見て応援したくなった
・ロベーヌの夢を叶えてあげたい
・話を聞いて何かをせずにはいられない
・自分の喜びでもあった

自分の親切度

５：　人
４：　人
３：　人
２：　人
１：　人

親切とは･･･相手のことを深く思う，自分も幸せ，誰にでも
まずは相手を知る。

藤崎小学校

研修だより

文責：

第５号

６月１１日（月）に行われた加藤先生の講義内容を文字に起こしましたので，お役立ていただければと思います。

１　これまでの道徳について

・これまでの道徳は心情理解中心であり，昭和３３年から変わらないものであった。たくさんの実践例が出ており，それを実践すればよいだけの型どおりのものであった。

２　これからの道徳について

・読み物道徳からの脱却を図る必要がある。
・変える必要があるのは発問である。
・授業者も楽しめ，児童も発見がある授業にならなければならない。
・言われたことをただ「がんばります」では考え議論するにはならない。「先生ちょっと待った」がたくさんある授業にしなければならない。

・本時の授業では自己評価を数値化させてみたが，数値化するのが目的ではなくただの手立てである。「これは何点？」「こっちとこっちの差って何なんだろう」と考えた時に「あっ」と気づきが生まれる。そこからが勝負になる。その気づきを見つけさせたいと思った。
・「皆さんにとってうれしい贈り物って何？」「自分が興味があることを言う」「じゃあこの時の一番すてきな贈り物はガソリンだよね」「いや違う」となる。導入で言ったことと授業で言ったことが違った時に，「何が違うんだろう」と問題意識を持つ。「いや違う」って言えるのが大事。「いいものって何だろうな」となる。見えないものが見えてきて，子どもたちの心のバトンがつながって，自分で考えて自分で行動できる人になる。自分で納得するとよい授業ができたという実感につながる。
・板書が発展していくように，子どもが立ち入るすきを与えることが大事。でもきちんとゴールが見える板書にしなければならない。そのための板書計画をする。貼られたものが全てではない。こうやって当てはめて貼って，期待した子どもたちの発言を入れ込むのではない。子どもと共に作っていきたいなという板書を作る。そうすると道徳ノートも一人一人変わってくる。生き方も変わってくる。

・質の高い多様な指導方法が示されたが，３つのどれかをやればよいのではないし，ただ話し合いをすればよいのではない。子どもたちに考えさせたり話し合わせたりする前に，どんな授業を展開していったらよいのか我々が考える必要がある。
・３つの指導方法以外にもテーマ発問型がある。それをもっと突っ込んだものがＫＴＯ型。板書も展開と発問も子どもと作っていくものである。ポイントは内容項目をまず考えさせること。７０，８０が９０に変わっていけばよい。例えば親切についてだと，何かをすればよいのではない。本当に相手のことを考えること。板書の配置はある程度考えているが，子どもの発言を紡ぎながら作っていく。ノートと板書は連動する。ノートに書きながら考えることが大事。そうすると，最初こう思

ったけどこう思ってこうなったと子どもの自己評価能力が上がっていく。下がることもあるがそれでもよい。そうすると授業に１本筋が通る。それができると目の前の子どもとしかできない授業になってきてＫＴＯ型になる。ＫＴＯ型は，子どもの発言を生かしながらさらに深く追求していくことができるという余地がある。先が見えないという危うさがあるがはまるとおもしろい。毎週やるのは難しいが，「この内容項目は」とか「この学習は」というのでやってみるとよい。

・国語で一番大事なのは何か。指導法１０％，教材研究２０％，素材研究７０％。道徳では内容項目が素材に当たる。素材研究（内容項目研究）を大事にしているのがＫＴＯ型である。相手のことを見て困っているか考えることが親切レベルが上がったということ。知っているとか調べたでなく，その人のために考えることが大事。「ちょっと待てよ」が大事。素材研究が大事。

Ｋは壁
Ｔは扉
Ｏはオープン
壁を壊し，扉を開けると違う世界が見えるよ。自分たちでしかできない授業になるよ。という意味。

・こんなもんでいいやという壁を作っているが，それを壊していく。
・いつも右からではなく，図式化したり，対比したりする板書をすることで見えてくる。
・「わかったからやってみようよ」ではなく，ステージを引き上げられるように「知的理解→心が動いて→体が動く」というようにしていく。分かったつもりのものを本当の意味で分からせることが大事。視覚的に反映できる板書が大事。色分け，ベクトル，図式化など。
・板書は情報伝達ツールでなく子どもと一緒に考えていくと子どもたちの気づきにつながっていく。
・自分はどうしたいと思うかとか教師の説話などをまとめの時間として設定しなくても，やりながら自然に自問自答していればよいのではないか。学習過程の４段階は必ずやらなくてもよい。教材を通して自分を語っていたり，ノートに書いていたり，最終的に自分の問題意識につながっていたりすればよい。気づきを認め，次の一手を打つには一人一人の気づきが大事。だからノートが必要。評価もできる。子どもを見取る。授業を振り返る。

3　評価の目的

・児童が自ら成長を実感できるものにしてあげたい。指導方法，授業の改善充実。そのために，記述式，大くくり，個人内。観点としては，

1　多面的･多角的
2　自分自身の考え方を深めていく
3　具体的な取り組み状況・一定のまとまりの中で物事を・・・

がある。年度はじめと年度終わりの感想（考え）をノートに書かせるのがよい。例えば，感想から児童の具体的な言葉を使い，通信簿は「へとへとになるまで真剣に考え，それを楽しみながら授業に臨み，学ぶ姿勢を・・・。」１時間だけではない。変容と児童の具体的な言葉を入れることが考えられる。要録用に直すと「毎時間の道徳の授業を通して，問題意識を持ちながら自分自身の生き方を追求し，真剣に多面的･多角的に考えることができた。」でも，要録のものは他の子にも当てはまりそうなのが課題。授業中の見取り，授業後の意識の変容を見取り，返していくことが大事。評価のための評価にならない。目の前の子どもとリアルタイムな授業を作っていくことが大事。そんな中で大事にしたいのは，「ハイ，ハイ」ではなく，「うーん」である。黙った時がアクティブだ。「うーん→わかった→言いたい→笑顔になる」というステップのある授業にしたい。

藤崎小学校

研修だより

第１１号

先日は６の１の授業がありました。１時間の中にたくさんの工夫があり，とても提案性のある授業でした。簡単ですが，協議会で話し合われた（終了後の会話も含む）成果や改善点，指導主事からの助言等は以下の通りです。今後の授業の参考になると思います。

①初めの段階と終わりの段階で同じ発問をすることについて

・教師も子どもも変容がわかりやすい。
・授業の反省に生かせる。
・授業と評価の一体化が図れる。

②ネームプレートについて

・立場がはっきりすると主体的になりやすい。考えが明確になると，伝えようとする意欲につながる。
・対話を通してさらに考え，初めの考えが変わったらネームプレートを貼り替えるのもよい。（他者との対話から自己内対話を行った結果とも言える。他者理解の場面になる。）

③中心発問について

・中心発問とねらいは整合性がとれていないといけないので，ねらいによって中心発問が違ってくる。本時のねらいからすると，中心発問はとてもよかった。
・中心発問で深く考えさせるためには，その前の段階が大事になる。本時は全体での対話の場面。対話が活発になるにはその前の場面が大事になる。と考えると，中心発問までの流れをどうするか十分に考える必要がある。

④その他

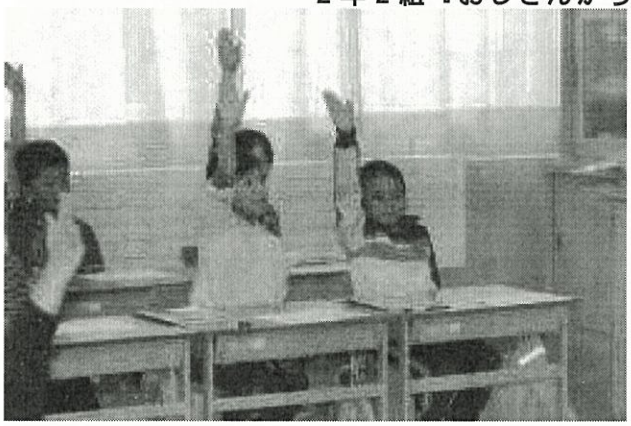
・対話の場面は全体での対話であったが，発言が少なかったのは押さえるべき何かが足りなかったと思われる。自分事として考えていたのか疑問に思った。ロレンゾがどんな気持ちで手紙を書いたかなど少しロレンゾに感情移入させておくとか，ロレンゾの気持ちを考えて事前読みをさせるとか，３人の友達からすると今回はロレンゾという友達について考えたがもしこれがお母さんだったらと考えるなど。ただ，お母さんだと「信頼」はあるが「友情」はどうなのか……。
・板書も書き，自分の考えも書くというスタイルの道徳ノートを見て，子どもたちの力がついていることが分かった。←加藤先生式ノート
・教材を前半と後半に分けたのが効果的だった。（前半は事前に読んで本時では読まないというのも提案性があった。）
・つぶやきをどう拾い，どうつなげていくのか対応力が求められる。
・場面ごとに発問をして読み取っていく方がよい教材もあるが，大きな発問をしてそのことについて考える過程でポイントとなる気持ちを読み取っていく流れもある。

藤崎小学校

道徳だより

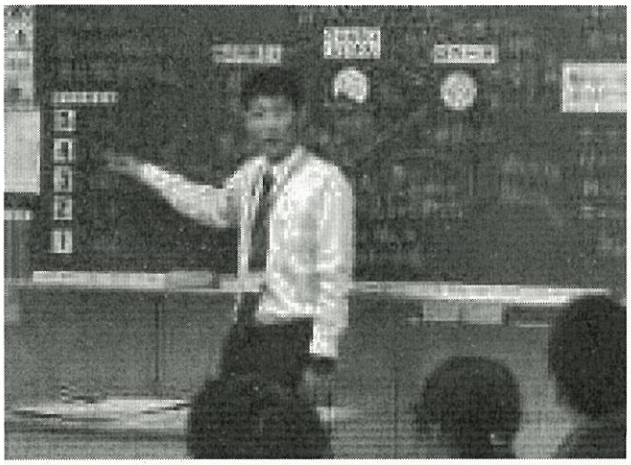
１０月３１日に、文部科学省指定の道徳教育研究協議会が本校を会場に開催されました。近隣市町村の先生方８０名以上が集まり、２年２組と６年２組の道徳科の授業を公開しました。参観した先生方からは、子どもたちが真剣に考え議論する姿や担任の授業の進め方等についてたくさんのお褒めの言葉をいただきました。これを励みに、今後の指導にさらに力を入れていきたいと考えています。その時の様子は以下の通りです。

２年２組『おじさんからの手紙』（規則の尊重）



見ず知らずのおじさんから小学生に宛てて「電車の中での小学生の態度がとても立派で嬉しくなった」という手紙が届きます。先に電車に乗っていたおじさんは、小学生が乗り込んできたときに（大騒ぎするだろうな。いやだな）と思ったのですが、騒がずに静かに電車に乗っている小学生の態度を見て、その日一日気持ちよく過ごすことができたという話です。２年２組では、この話を教材にして、身近な場面での約束やきまりについても取り上げながら、約束やきまりの大切さや、みんなで気持ちよく生活していくための態度について考えました。

６年２組『最後のおくり物』（親切・思いやり）



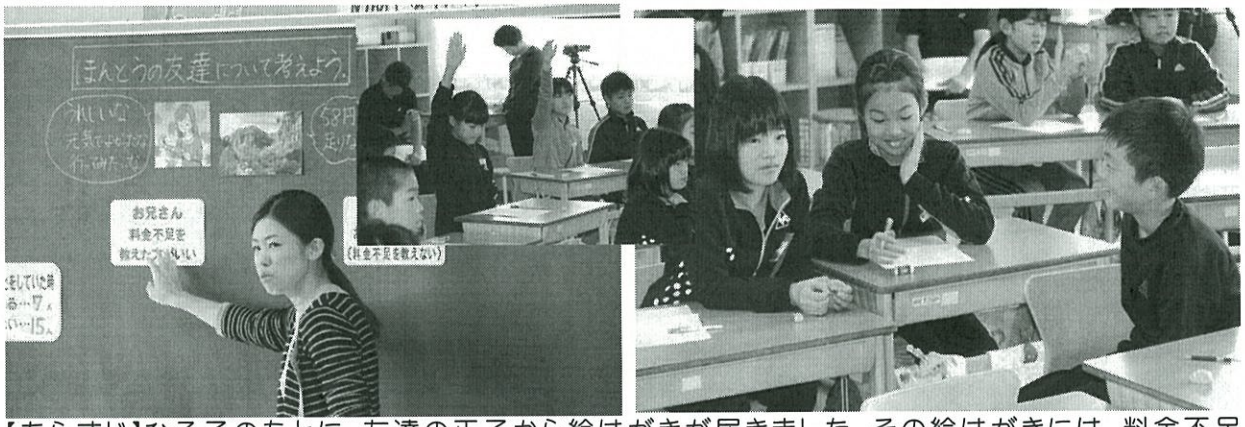
俳優になりたいロベーヌの思いを知った守衛のジョルジュじいさんは、養成所の月謝を払うことができないロベーヌのアパートに名前を明かさずにお金を置きます。差出人がわからず困惑するロベーヌでしたが、相談したジョルジュじいさんに背中を押され、そのお金で養成所に通います。そのお金がジョルジュじいさんからであったとロベーヌが知って間もなくジョルジュじいさんは倒れ、息を引き取ってしまうという話です。６年２組では、この話を教材にして、活発に話し合い、相手の立場に立って考えること、進んで親切にしようとする態度について考えました。

藤崎小学校

道徳だより

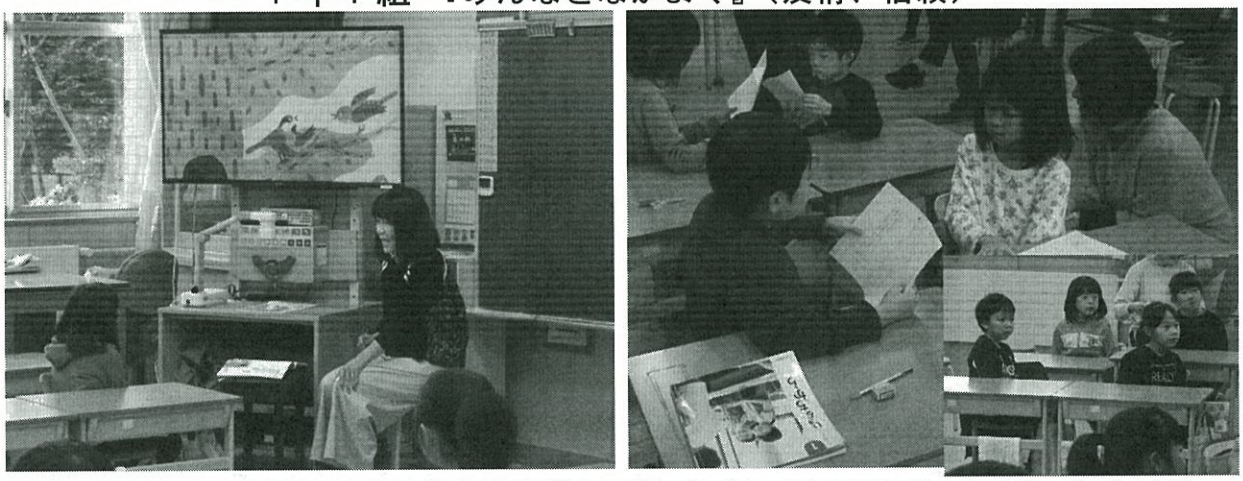
グラウンドは白い雪で覆われ、季節はすっかり冬となりました。２学期も今日で終了です。
教職員で行っている校内研修の授業も２学期で全員が終了しました。下の写真は、４年１組と１年１組の授業の様子です。

４年１組『絵はがきと切手』（友情、信頼）



【あらすじ】ひろ子のもとに、友達の正子から絵はがきが届きました。その絵はがきには、料金不足という紙が貼られていました。ひろ子は、正子に料金不足であることを知らせるか、知らせずに不足分を自分で払うか悩みました。
☆４年1組では、このお話を教材にして、ひろ子の立場、正子の立場それぞれについて考え、言いづらいことでも伝えることが友達のためになることだと話し合い、友達のことを考えて行動することの大切さについて考えを深めました。

１年１組 『みんなとなかよく』（友情、信頼）



【あらすじ】みそさざいは、山奥に住むやまがらの家に行くか、近くのうぐいすの家に行くか迷います。その日、やまがらは誕生日なので、友達を招待していたのですが、みんなはうぐいすの家に音楽の練習をしに行ってしまいました。最初は、うぐいすの家に行ったみそさざいでしたが、途中で抜け出し、やまがらの家に行きました。
☆1年1組では、このお話を教材にして、友達のことを思う気持ちや、友達を大切にすることの喜びについて友達や先生と話し合い、考えることができました。

参観日には、多目的ホールに展示した道徳ノート展をご覧いただきましてありがとうございました。ノート展や道徳だよりをご覧になり、ご家庭でお子さんとの話題にしていただけましたら幸いです。３学期も引き続き、子どもたちの心の成長を育むために道徳教育、そしてその他のすべての教育活動に精一杯取り組んでいきたいと思っています。それでは、ご家族の皆様、よいお年をお迎えください。